



小瀬川水系大規模氾濫時の減災対策協議会



太田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

## 水防災意識社会を再構築する取組み

平成27年9月関東・東北豪雨では、記録的な大雨により鬼怒川の堤防が決壊しました。この災害を踏まえ、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、国土交通省は、社会全体で洪水に備えるため、「水防災意識社会再構築ビジョン」を策定しました。

このビジョンに沿って、全ての国管理河川とその沿川市町村において、平成32年度を目途に、ハード対策とソフト対策が一体となった水防災意識社会を再構築する取組みを行います。今回は、具体的な取組みを二つ紹介します。

### 取組み①「大規模氾濫時の減災対策協議会」を開催しました

昨年9月に発生した関東・東北豪雨により大規模な浸水被害が発生したことを踏まえ、太田川・小瀬川においても「水防災意識社会」の再構築に向けて、国や関係する自治体などで構成する「大規模氾濫時の減災対策協議会」を設立し、小瀬川水系は、5月25日、太田川水系は、6月1日に初会合を開催しました。

協議会では、5年間で達成すべき目標として、「太田川水系または小瀬川水系の河川整備計画に位置づけられる事業の早期完成に向け事業の推進を図りつつ、大規模水害に対し、地域別の氾濫特性を踏まえたハード・ソフト対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す。」ことを決定しました。

### 水防災意識社会再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村(109水系、730市町村)において、平成32年度を目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

- <ソフト対策>** ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。
- <ハード対策>** ・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

#### 主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。



**取組み② 小瀬川水系における想定最大規模の降雨による  
洪水浸水想定区域図等の公表を行いました**

平成27年の水防法改定を踏まえ、「想定し得る最大規模の降雨」により浸水が想定される区域と深さを記載した「小瀬川水系小瀬川洪水浸水想定区域図」を、6月14日に公表しました。

この背景には、近年、時間雨量が50ミリを上回る豪雨が全国的に増加しているなど、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化していること。そして、広島市安佐南区で多くの被害をもたらした「バックビルディング現象」による線状降水帯の豪雨等、雨の降り方が変化していることから、堤防やダムだけでは守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えのもと、各河川において想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図を公表することとなりました。

また、「想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図」に加え、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域を示した「家屋倒壊等氾濫想定区域図」もあわせて公表しました。

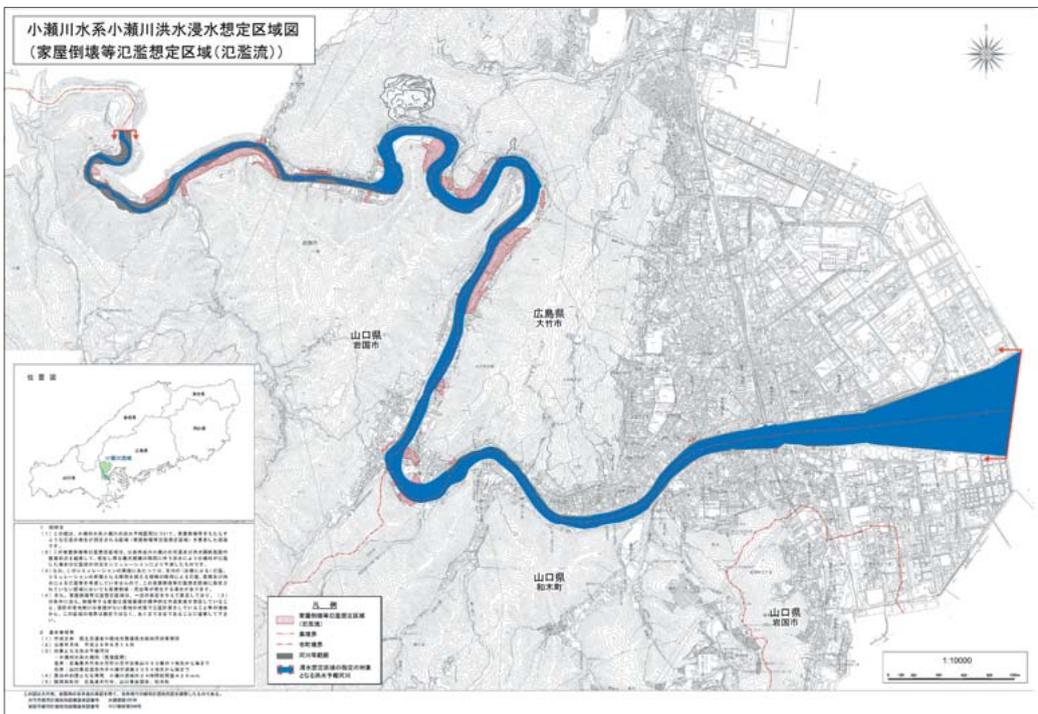
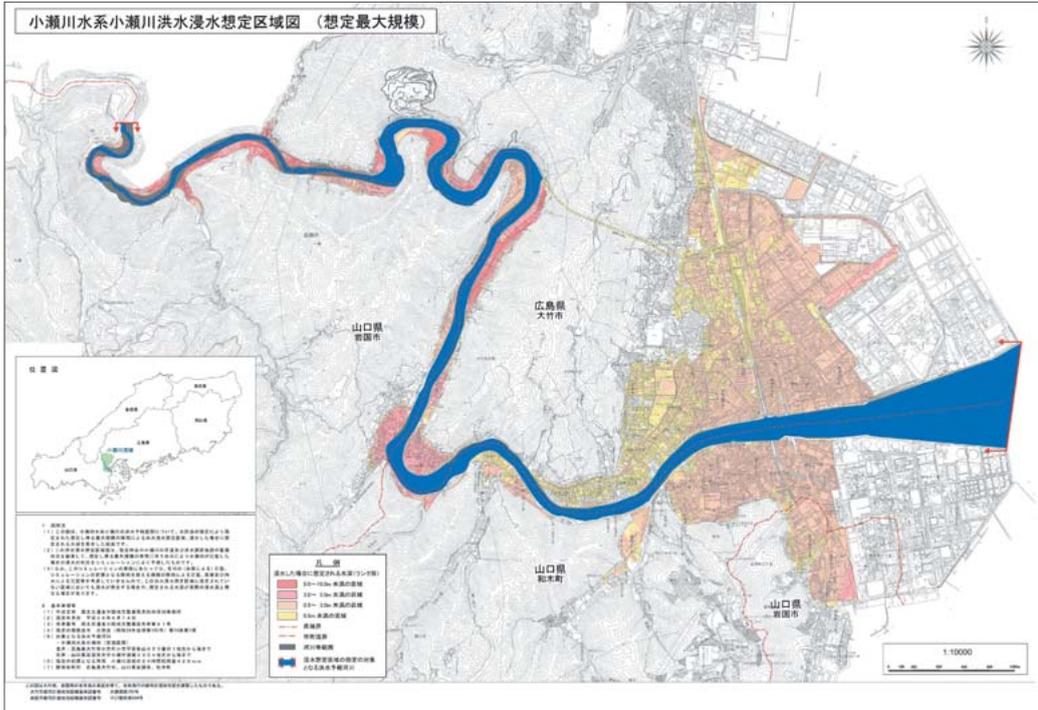
これらの情報により、各自治体による避難勧告等の適切な発令や、住民のみなさんが自らリスク

を察知し主体的に避難していただくための材料となることを期待しています。

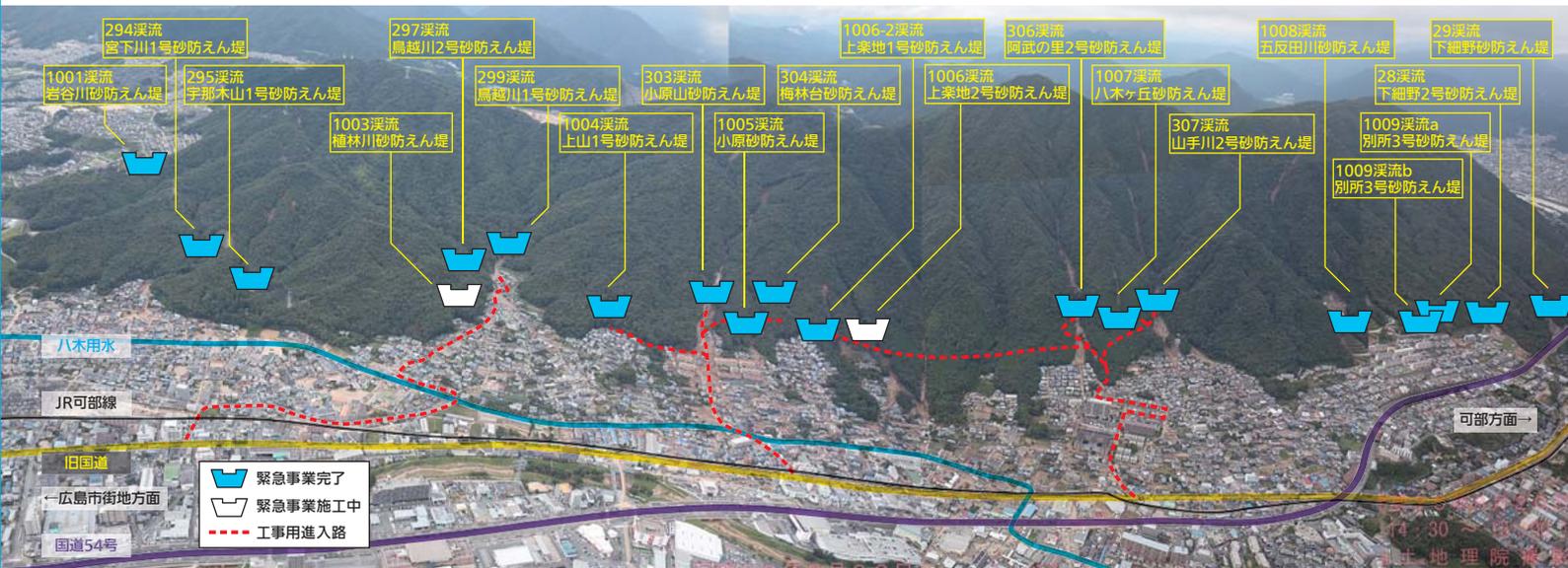
「想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図」等の各図をご覧になりたい場合は、太田川河川

事務所のホームページで公表しておりますのでご参照ください。また、太田川河川事務所内での閲覧場所を設けております。

なお、太田川水系についても今後、公表することとしています。



# 広島豪雨土砂災害 緊急事業進捗状況（6月末現在）



八木緑井地区の緊急事業が完了した砂防えん堤

写真提供：国土地理院



八木3丁目303渓流（小原山砂防えん堤）



緑井7丁目294渓流（宮下川砂防えん堤）



八木8丁目29渓流（上細野砂防えん堤）

## 緊急事業

※平成26年8月20日の災害時に崩れて渓流に残っている不安定な土砂に対し、緊急的に安全性を確保するための事業



平成26年8月20日の災害時に崩れたまま渓流に残っている不安定な土砂

## 砂防事業

※平成26年8月20日のような土砂災害が再び発生した場合にも安全性が確保できるよう、砂防えん堤の嵩上げや渓流保全工（水路工）などの追加施設を整備する事業



平成26年8月20日のような災害が再び起こった場合に流れ出ると予想される土砂



**砂防えん堤**：土石流をくい止める施設。

**前庭保護工**：砂防えん堤の前面が洗い流されることを防ぐ施設。

**渓流保全工**：水の流れて渓流が掘れることを防ぐ施設。



砂防施設完成イメージ

太田川河川事務所では、平成26年8月20日に発生した広島豪雨災害に対応するため、「緊急事業」を実施しています。安佐北区可部東地区、安佐南区八木緑井地区・山本地区で実施している24渓流25基の砂防えん堤のうち、本年6月末までに22基の「緊急事業」が完了しました。

引き続き土砂災害から地域の安全を確保するための「砂防事業」を進める予定としており、全ての事業完了は平成31年度を予定しています。

事業完了までの期間、多数の工事車両が住宅周辺を通行することになります。地域の皆さまにはご迷惑をお掛けしますが、引き続き事業へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 「太田川水辺の安全教室」を開催します 参加費無料

太田川河川事務所では、平成21年度より毎年「水辺の安全教室」を開催しています。

この取組みは、実際に川に入る体験を通じて、子供達に川の面白さや自然の豊かさを知ってもらうとともに、川の特性や危険を察知する感覚を身につけ、川に対する安全意識の向上を図ることを目的としています。

川に親しむ・川に学ぶ体験学習「水辺の安全教室」に参加してみませんか！



日時：平成28年7月24日(日) 13時～16時30分  
(小雨決行)

会場：かこがわ水辺の楽校  
[狩小川小学校裏：広島市安佐北区上深川町1345]



対象者：小学3年生～6年生(先着100名)

申込締切：平成28年7月15日(金)17時まで

※大雨等で延期する場合は、7月23日(土)17時までに連絡いたします。(延期候補日：7月31日(日))

▶お申込み・お問合せ 太田川河川事務所 管理第一課 TEL：082-222-9248 (直通)

犠牲者  
ゼロを  
目指して

## 今年も防災イベントを開催します



平成28年7月30日(土)14時～ マツダ スタジアム

これまでの堤防整備やダム建設により、災害は着実に減少してきておりますが、その整備は未だ十分とは言えません。また、近年集中豪雨による災害も増加しています。

これらの災害による被害を最小限に抑えるためには堤防整備等のハード対策と避難等のソフト対策を一体的に進めていくことが重要です。

そこで、ソフト対策の一環として災害の怖さを実際に体験してもらい、早めの避難の大切さを実感していただく防災イベントを本年度も開催します。皆様の御参加をお待ちしております。

